産科・婦人科

●スタッフ(平成30年10月1日現在)

診療科長 西 洋孝 医局長 長嶋 武雄 病棟医長 伊東 宏絵 外来医長 小島 淳哉

医師数 常勤 29 名 非常勤 19 名

診療科の特色・診療対象疾患

当科は、周産期医学、生殖医学、婦人科腫瘍学、女性 医学などの疾患分野が多岐にわたり、幅広い診療を行っ ております。

周産期部門では小児科との連携のもと、近隣施設からのハイリスク症例などを極力収容できるように努めており、また助産師外来や出産準備クラスなどを設置し妊婦に身近に接していける環境も整備しております。今後は安全に配慮したうえで無痛分娩を積極的に行い、正常分娩件数の増加にも力を注いでいく予定です。

婦人科疾患に関しては、他施設では取り扱い困難な症例に対しても、根治を目的にした広範囲な外科的切除やその対極である低侵襲手術にも積極的に取り組んでおります。従来の腹腔鏡下手術のみならず、近年国外で普及しつつあるロボット支援手術を婦人科領域で先駆けて導入し、国内ではトップクラスの症例数を誇っています。

生殖医学部門では、近年症例数の増加もあり、新病院 におけるリプロダクションセンターの設置とともに生殖 医療部門の充実化も進めていく予定です。

その他、女性医学系疾患である骨盤臓器脱に関する腹腔鏡下手術や、放射線科との連携による子宮筋腫や周産期出血に対する子宮動脈塞栓術にも積極的に取り組んでおります。

診療体制と実績

1) 外来診療体制と実績-

午前中は産科外来1診と婦人科外来3診の体制で対応しております。午後は婦人科系では、骨盤臓器脱外来、不妊症外来、子宮鏡検査外来、コルポスコープ外来、腫瘍外来、子宮頸癌細胞診外来、周産期系では妊婦超音波外来やハイリスク外来など特殊外来を中心に展開しています。年間での外来患者件数はのべ32000名を超えており、近年は近隣地域ばかりではなく他道府県からの紹介や、アジアなど諸外国からも受診される患者さんが増えてきています。

2)入院診療体制と実績 -

9階東病棟を周産期センターとして年間で約600件の 分娩、9階西病棟を婦人科病棟として約1000件の手術 を行っており、のべ約2700件の入院件数の診療を行っ ています。婦人科領域では良性疾患はもとより悪性疾患 についても、安全性や根治性を重視したうえで、整容性に優れ負担の少ない腹腔鏡下手術やロボット支援手術を積極的に行うことを心掛けております。2016年4月からは、先進医療として子宮頸癌に対するロボット支援手術も行っており、また、進行卵巣がん症例に対する生命予後を改善する目的での広範囲切除術などの他施設では行うことが難しい手術療法や、抗がん剤治療、放射線治療といったがん治療の三本柱をバランスよく組み合わせ、質の高い治療を行うことを心掛けております。また、近年の高齢化社会で注目されているQOL疾患である骨盤臓器脱に対する腹腔鏡下仙骨腟固定術など負担の少ない先進的な治療にも取り組んでおります。

疾患別割合

